

令和6年度学校評価(教育活動診断)



11月中旬に実施した「教育活動診断票(アンケート調査)」へのご協力、ありがとうございました。今年度も生徒と保護者の両者に協力していただきました。1月20日に「学校運営協議会」を開催し、9名の委員の方とアンケートの分析※を行いました。調査結果から見た傾向や特徴は次のとおりです。

※ 分析は、教育活動診断アンケートの4段階の評価のうち、主としてA(よくあてはまる)、B(ややあてはまる)の評価を合わせた数値を基に行いました。

全般的な傾向・特徴

「命輝く学校」を目指して

○ 新型コロナウイルス感染症の影響はほぼなくなり、本年度はコロナ前と同様の教育活動を実施することができました。その結果、行事や部活動に関する問いについて、生徒・保護者ともに肯定的な評価が上昇しました。3年生を中心に、全校ダンス「開幕宣言」、全校合唱「ふるさと」が立ち上がったこともあり、全校が「命輝く学校」を目指して、力を合わせて一つのものをつくり上げる活動に対して、好意的な評価をいただいたものと考えられます。



10/17 全校ダンス「開幕宣言」

○ 本年度、生徒の肯定的な評価の割合が上昇したのは、Q1「学校へ行くことが楽しい」Q2「あいさつや返事がしっかりできている」Q3「服装のきまりを守り、中学生らしい身だしなみを心がけている」Q4「通学路や交通ルールを守って登下校している」Q6「掃除は無言清掃を心がけ、真剣に取り組んでいる」Q7「学級の係活動に積極的に取り組んでいる」Q8「全校ダンスや合唱に積極的に取り組んでいる」Q9「学校行事に積極的に参加している」Q10「部活動に目標をもって取り組んでいる」Q11「自分が困ったり悩んだりしたとき、相談できる友達がいる」Q12「困ったり悩んだりしたとき相談できる先生がいる」Q13「授業に真剣に取り組んでいる」Q14「授業では、進んで自分の意見や



12/17 3年保育園との交流

感想などを発表している」Q15「学習内容が理解できている」Q16「ノートや課題、作品などの提出物をきちんと提出している」Q20「情報機器は、家庭のルールを守り、モラルをもって使用している」の16項目で、全20項目の設問の4分の3に上りました。それだけ、本年度の教育活動が、生徒にとって充実したものであったと言えるでしょう。

○ 充実した学校生活を示す結果が表れた一方で、心配な面もみられました。

生徒Q18「家庭での学習時間」は、ここ3年減少(60.2%→56.8%→52.3%)し続いています。特に1・2年生の学習時間の短さが心配です。その背景には、家庭における情報機器の普及が関係していると考えられます。

その根拠の一つとして、情報モラルに関する問いでは、生徒(Q20)の92.8%がルールを守って使っていると回答しているのに対し、保護者(Q20)が、お子さんがルールを守って使っていると回答した割合は64.4%しかなく、双方の認識に大きなずれがあることや、保護者が家庭での情報機器の管理について苦慮している様子がうかがえることが挙げられます。



5/1 生徒向け情報モラル講演会

ルールを守って使っているはずの生徒から、遅い時間までゲームやスマートフォンを使用していて朝起きられないといった話を聞くことがあります。情報機器の過度な使用は、規則正しく生活し、学習や部活動等に打ち込む中学校生活にとってはふさわしくないと考えます。情報機器を持つ以上、トラブルは常に隣り合わせです。生徒が正しく便利に情報機器を使えるようにするために、ご家庭で話し合っただけのよう改めてお願いします。

○ 生徒向けの設問の中でいちばん肯定的な回答の割合が低かったのは、Q14「授業では、進んで自分の意見や感想などを発表している(52.1%)」です。コロナ禍以前は60%前後でしたが、その後40%台まで落ち込み、今年度ようやく50%台に乗りました。

現在の学習指導要領は、教師がいかに教えるかではなく、子供たちが何を学ぶかというところに重点を置いています。生徒自身が問いを立て、本気になって解き明かそうと追究したり、みんなで意見を交わしながら自身の考えを深めたりしていくためには、学校が重要な役割を担っていると考えます。

「なぜ」「どうして」と、問いを立てて学ぶことを大切にして、今後も授業に取り組めるようにしたいと思っています。



12/13 英語科公開授業